

和歌山だより

平成25年12月号
(2013)



マリーナシティから望む夕日 (和歌山市)

CONTENTS

1. 知事メッセージ P1
2. 和歌山県政トピックス P2～P9
3. お知らせ P10
4. ふるさと歳時記 P11～P12

今年もご愛読ありがとうございました。



One for all, all for one(一人はみんなのために、みんなは一人のために)

アレクサンドル・デュマの三銃士でダルタニヤンたちが叫ぶ言葉ですが、なかなか良い響きなので、早大のラグビー部が自らのモットーとして取り入れ、それが今や日本のラグビー協会全体のキャッチフレーズになっています。

私はスポーツが大好きで、特にチーム競技をよく見ますが、どんな競技であれ、個々の選手のそれぞれの技量が優れていっても、チーム全体としてチームワークがなくて、チームとしての戦略ができているチームにはかないません。選手はチーム全員のために、そしてそれがその選手のためでもあるということです。

私は、和歌山県という単位で我々の生活を考えても、この言葉は良い教訓になると思っています。県民の一人ひとりが、自分さえ良ければよいとわがまま勝手なことを始めると、県全体の雰囲気や評判が悪くなり、それが、結局は一人ひとりに不利に働くようになってくると思います。我さえ良ければゴミをポイと町や山に捨てたりしていると、そんな汚い所は嫌だと観光客も来なくなつて地域の活力が減るし、第一それを拾う行政コストが高くなつて結局はその人にもツケが返ってきます。不誠実な商取引で一時は儲けたとしても、それが蔓延すれば、地域の評判が悪くなり、結局は、その地域全体のビジネスが振るわなくなつてその人も含め皆が損をしてしまいます。

全体の事を考えて立派な生き方をしている人が多い地域では、地域力も高まって、個々の人も結局は得をするでしょう。そういう「一人」の中でも、最も大事なのは行政の長の行動でしょう。頼りなかつたり、優柔不断で物事を決められなかつたり、果ては汚職をしたりといった事では、その長をいただいている地域全体が、そんな眼で見られます。県知事の汚職がどれほど和歌山県の評判を落とし、ひいては県民の損失になったか。我々は思い知らされた所です。知事の行動が県の印象を決定するという緊張感を持って県政に臨みます。



11/12 定例記者会見にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●いよいよ和歌山に行ってみようキャンペーン開催中！

・11月14日から来年1月13日まで、県観光連盟は、首都圏において「いよいよ和歌山に行ってみようキャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、3年間実施した「そろそろ和歌山に行ってみよう」に続くもので、11月14日、オープニングイベントとして御茶ノ水ソラシティ(東京都千代田区)において、首都圏のメディア、旅行会社、流通業等関係者を対象にしたレセプションを開催し、約260名の参加をいただきました。

・仁坂知事は、これまでのキャンペーンでの認知度向上を踏まえ、「平成26年は『世界遺産登録10周年』、平成27年は『高野山開創1200年』と、和歌山県の観光にとってゴールデンイヤーが続きます。そんな和歌山県に『いよいよ』行ってみませんか。」と実際の来訪を呼びかけました。

・また、和歌山県を応援するため、ふるさと大使 小西 博之 さん、パンダ大使 岡本 玲 さん、「おいしい！健康わかやま産品応援隊」の美容キャプテンを務める体操の 田中 理恵 さんも駆けつけていただき、「ふるさと和歌山の素晴らしさ」や「パンダが間近で見られること」「和歌山には美味しい食べ物がいっぱいあること」など、明るく元気に和歌山のPRをしていただきました。

・このキャンペーン期間中は、東京にある和歌山ゆかりのスポット(わかやま紀州館、六義園、高野山東京別院、新宿十二社熊野神社、北区飛鳥山博物館等)を巡るスタンプラリーを実施しています。抽選で和歌山県旅行や「わかやま紀州館」の買い物券が当たりますので、東京近郊にお住まいの方や東京へお出かけの際に是非ご参加ください。

・また、12月中は、ご当地キッチン+SAKE・えまるしえ(表参道店・御茶ノ水ソラシティ店)において、和歌山自慢の食材を使った料理フェアも実施されています。

・そのほか首都圏において、多くの観光PRイベントも開催されます。詳しくは、わかやま紀州館のホームページ内にある特設サイトをご覧ください。<http://www.kishukan.com/>



●「ぽかぽか和歌山キャンペーン『冬こそ和歌山』」実施中

・12月1日から来年3月31日まで、県と県観光連盟はNXC西日本関西支社と連携し、県内施設・店舗などの協賛を得て、和歌山のおトクな冬の旅を提案する「ぽかぽか和歌山キャンペーン『冬こそ和歌山』」を実施しています。

・パンフレットに掲載されているクーポン券を提示すれば、県内各地の温泉・お宿・お食事処等の協賛施設でお得な特典やサービスを受けることができます。

・パンフレットは、関西・中国地区の主なサービスエリアや近畿圏内の道の駅、わかやま紀州館(東京都千代田区)、和歌山県名古屋観光センター(愛知県名古屋市)などで配布しています。

・この冬は、是非、和歌山へお越しいただき、おトクに温泉、お買い物、お食事、観光で“ぽかぽか”を体験してみてはいかがでしょうか。

・詳しくはこちらをご覧ください。

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/shiryo.php?sid=18468>



●「ココ・カラ。和歌山フェスティバル2013」を開催しました！！

・11月15日から11月17日まで、県とJAグループは、県産農産物の魅力を全国へ発信することを目的に、有楽町駅前地上広場(東京都千代田区)において、「ココ・カラ。和歌山フェスティバル2013～和歌山の農産物で美味しい健康に！～」を開催しました。

・11月15日のオープニングセレモニーにおいて、仁坂知事は、「熊野古道、温泉、パンダ等観光資源豊かな癒しの地『和歌山』へ是非お越しいただくとともに、美味しいくて安全な和歌山県産品をたくさんお召し上がりください。」と県産品の魅力を伝えました。

・広場には特設ステージが設けられ、物産や観光のPRをはじめ、スペシャルゲスト(モデルの阪井あゆみさん、俳優の小西博之さん、野球日本代表「侍ジャパン」監督の小久保裕紀さん)によるトークショー、和歌山出身アーティスト(丸石輝正さん、ウインズ、宮本静さん)によるライブなど多彩な催しが繰り広げされました。

・11月16日の小久保裕紀さんのトークショーでは、故郷の果物、野菜、梅干しといった食材や観光地の豊かさ等地元和歌山への熱い思いを語られました。

・期間中、会場内には最盛期を迎えたみかんや柿をはじめ、野菜、花、加工品などの特別販売ブース、観光PRブース等も設けられ、大勢の人で賑わいました。



●立教大学×和歌山県「食の機能性に関するフォーラム」を開催しました

・11月20日、県は立教大学との共催で、県産食材の機能性とその魅力について発信するため、「官」「学」連携のオープン講座「食の機能性に関するフォーラム」を開催しました。

・このフォーラムは、食とスポーツをキーワードに健康づくりを推進することと、若い世代の皆さんに「食の機能性」を学んでもらい、その重要性を将来にわたって発信してもらうことが目的であり、スポーツ、医学や料理界を担う若い世代の方々をはじめ約450人に参加いただきました。

・フォーラムでは、アンチエイジングの第一人者 順天堂大学大学院 白澤 卓二 教授が「機能的な食べ方」と題した基調講演を行い、プロスキーヤー 三浦 雄一郎さんの父で100歳でもスキーを楽しんでいた故 三浦 敬三さんの食生活などの実例をあげながら、果物や野菜の抗酸化成分の効果など、食の機能性を活かした食生活の重要性を話されました。

・その後、スポーツ栄養学の第一人者である立教大学 杉浦 克己 教授をコーディネーターに、元読売巨人軍・元ピッチャーバーグバイレーツ投手 桑田 真澄さん、白澤教授、そして、仁坂知事がパネリストとなり、パネルディスカッションが行われました。

・桑田さんが、選手時代から続けている食へのこだわりや、試合に向けて実践した食事方法について話され、白澤教授が医学的な見地から食の機能性の解説をしました。仁坂知事からは、健康に関連する県特産物のみかん、柿、梅干しなどについて紹介しました。

・参加者は、「スポーツだけでなく勉強や仕事にも生かせる内容がたくさんあった。パネリストのみなさんの話がわかりやすく説得力があった。おいしい和歌山県のみかん、柿、梅干しをいただいて健康を維持したい。」など、食の機能性について理解を深めました。



●県内小学校へみかんを提供しました

・県では、地産地消の取組の一環で実施している主要農水産物の提供第4弾として、県内国公私立小学校・特別支援学校に給食用の「みかん」を提供しました。

・また、教育委員会と連携し、以下の学校において各振興局農業振興課の職員が、「みかん」の生産状況や美味しいみかんの見分け方等を、子どもたちに説明する出前授業を行いました。

・出前授業を受けた子どもたちは、「美味しいみかんの見分け方を家族にも教えたい。」「習ったむき方を家族にも教えて一緒に食べたい。」と話していました。

○出前授業実施校

実施日	実施校名	実施日	実施校名
11月6日	県立紀伊コスモス支援学校	11月13日	美浜町立松原小学校 田辺市立富里小学校
11月12日	有田市立港小学校 那智勝浦町立太田小学校	11月14日	紀の川市立田中小学校
11月13日	岩出市立山崎北小学校	11月15日	九度山町立河根小学校



●「全国棚田(千枚田)サミット」が開催されました

・11月8日と11月9日の2日間、有田川町のあらぎ島等において、「全国棚田(千枚田)サミット」が開催されました。この行事は、農家の高齢化や担い手不足など農業を取り巻く情勢が厳しさを増す中、地域の景観や水源涵養、洪水防止など先達が守り続けてきた棚田が有する多面的機能を、将来にわたって持続していくことを目的に開催され、今回が19回目で県内では初めての開催となりました。

・サミット開催に当たり、主催者である全国棚田(千枚田)連絡協議会 工藤 秀一 会長が、「日本の原風景であり、先人たちの知恵と努力により守られてきた棚田を未来に引き継いでいく意義を皆様と共有し、棚田の農村景観を維持していくための努力が必要である。」と呼びかけ、中山 正隆 有田川町長が、「少子高齢化が進む地域で棚田をどのように守るか、明日に向かって一緒に棚田保全意識を高めていきたい。」と挨拶しました。

・引き続き、仁坂知事は、「参加者はそれぞれの胸の中に、自分の町の棚田とどのように共生するか考えていると思う。その想いを参加者と交換し、新たな想い、若しくは想いを強くしていただきたい。」と期待を込めました。

・その後、全国各地で様々な棚田等保全活動に取り組んでいる方々の事例紹介や、持続的な保全活動への相互の協力と、地域一丸となって保全に取り組んでいくことについて、意見交換を通じて交流が図られました。



●「2021年ワールドマスターズゲームズ」の関西地域での開催が決定

- ・11月10日、国際マスターズゲームズ協会(IMG A)は、ワールドマスターズゲームズ(WMG)2021年大会の開催地を関西地域に決定し、京都市の西本願寺において基本合意書の調印式が行われました。アジアでの開催は初めてとなります。
- ・調印式には仁坂知事も出席し、「和歌山でも何らかの種目を開催し多くの参加者に来てもらい、健康長寿のよさを県民みんなで味わうことはいいことだ。」と期待を込めました。
- ・今回の決定は、WMG 2021年大会の関西地域での開催に向け、11月6日から11月13日の日程でIMA査察団による査察が行われていましたが、日程の途中で基本合意に至ったものです。
- ・11月13日には、IMA カイ・ホルム 会長らが、競技会場の候補地となっている上富田スポーツセンター(上富田町)や和歌山ビッグウェーブ(和歌山市)などの視察に訪れ、「和歌山は質の高い設備が整っている。」と評価されました。
- ・和歌山は、日本のマスターズ陸上競技発祥の地として伝統もあります。WMGの関西での開催にあたり、和歌山でも何らかの種目が実施されるよう積極的に誘致し、多くのマスターズ愛好家等の来県につなげていきます。



カイ・ホルム会長と懇談する仁坂知事



和歌山ビッグウェーブを視察する査察団

●和歌山県文化表彰50周年記念展を開催しました

- ・11月23日から14日間、和歌山市の県立近代美術館において、和歌山県文化表彰50周年記念展を開催しました。
- ・11月23日のオープニング式において、仁坂知事は、「昭和39年以来、258名と40団体の功績を讃えてきた県文化表彰が50周年の大きな節目を迎えた。受賞者やご遺族、所蔵者にご協力いただいて、歴代個人受賞者全員の作品を展示できることになった。ぜひ、ゆっくりとご鑑賞いただきたい。」と挨拶しました。
- ・この記念展は、すぐれた文化の創造と普及に寄与された方に贈ってきた県文化表彰が創設以来50周年を迎えたことを記念して開催したもので、第1回受賞の川口軌外さん(洋画)から今年度受賞の三浦啓子さん(ガラス造形)、田村由美さん(漫画)、中平穂積さん(写真・文化活動)まで、これまで美術分野で受賞された70名の方々から95作品を出品いただきました。
- ・連日、多くの人が各受賞者の代表作や新作を鑑賞し、芸術の秋を堪能しました。



今月の和歌山県政トピックス

●「津波防災講演会」を開催しました

・11月4日、県民文化会館において、県民の防災意識の向上と県を代表する偉人である濱口梧陵の功績を顕彰することを目的に「津波防災講演会～来るべき地震・津波から命を守るために～」を開催しました。

・この講演会は、平成23年に「津波対策の推進に関する法律」により、「稻むらの火」の故事にちなんだ11月5日が「津波防災の日」と定められたことを受け、毎年開催しているものです。

・冒頭、仁坂知事は、「この講演会を契機に防災意識を高め、住宅の耐震化や家具の固定など、ご家庭での防災対策をより一層進めていただければと思います。」と挨拶しました。

・講演会では、広川町語り部サークル 崎山 光一 代表から「濱口梧陵と稻むらの火」と題して、濱口梧陵の功績と教訓についてお話しいただきました。

・引き続き、群馬大学理工学研究院教授・広域首都圏防災研究センター長である片田 敏孝 氏から、「巨大津波想定に向かい合う防災を考える」と題した基調講演をいただきました。片田教授は、「想定に過剰に恐がる必要はない。その日、そのとき、自ら考え逃げることが大事だ。」と、地震・津波と正しく向かい合い、主体的に考えることの重要性を参加者に訴えかけました。

・参加者からは、「数字に怯えるだけじゃなくて、いざという時に行動できるようにしたいと思う。」との感想もあり、一人ひとりが災害と向かい合う機会となりました。



●津波災害対応実戦訓練を実施しました

・11月30日、南海トラフ地震などの大規模災害に備え、県職員による迅速な初動対応と災害対応力を強化するため、関係20機関と連携した救助活動などの訓練を実施しました。

・また、この訓練の実施に先立ち、職員の参集訓練も実施しました。この参集訓練は、事前に参集時刻の通知がなく、当日朝、不意打ちによる緊急参集メールを受けて災害対策本部に参集するもので、仁坂知事もメール確認後、防災服を身にまとい自転車で駆けつけました。

・その後、午前9時頃、和歌山県で震度5強～震度7の揺れを観測したとの想定のもと、県職員、関係機関、住民の約1,100名がそれぞれの訓練に臨みました。この訓練もシナリオ等ではなく、仁坂知事の指示にそれぞれが的確に応え、行動していました。

・今回の訓練は、ヘリコプター離発着訓練、物資搬送訓練等のほか、新たに海上保安庁・漁協と連携した津波情報伝達・漁船避難訓練、巡視船・漁船による救援物資搬送訓練や警察による災害救助(瓦礫撤去)訓練も追加し、本番さながらの訓練となりました。

・災害対策本部において指揮を執った仁坂知事は、「今後も訓練を継続して災害発生時に備えたい。」と大規模災害に対する備えについて話しました。



●県内のコミュニティFM放送局と災害時における放送要請に関する協定締結

- ・11月18日、県内の全コミュニティFM放送局5局と県は、県民への災害に関する情報等の放送について、円滑な協力が得られるよう「災害時における放送要請に関する協定」を締結しました。
- ・この協定は、大規模災害時における県民の生命や財産を保護するため、県から災害に関する情報や緊急を要する告知事項の放送を各FM放送局に要請し、県民に対して災害情報の迅速な提供を行うことを定めたものです。
- ・県は、既にテレビ和歌山、NHK和歌山放送局、和歌山放送のほか、関西の主なテレビ局4社などとも同様の協定を締結していましたが、よりきめ細かな情報伝達を行うため、コミュニティ放送局と初めて協定を締結しました。
- ・協定の締結式において、仁坂知事は、「いろんなメディアを総動員して複線化し、情報を県民に届けたい。コミュニティFMは地域の重要な情報伝達手段。」と期待を込めました。
- ・ラジオは情報周知徹底に重要なメディアであり、災害時の防災行政無線をはじめエリアメール等情報伝達手段の複線化に取り組んでいる県としては、大変心強いものとなります。



放送局名	所在地	放送局名	所在地
NPO法人エフエム和歌山	和歌山市	株式会社FMマザーシップ	湯浅町
FMはしもと株式会社	橋本市	南紀白浜コミュニティ放送株式会社	白浜町
FM TANABE株式会社	田辺市		

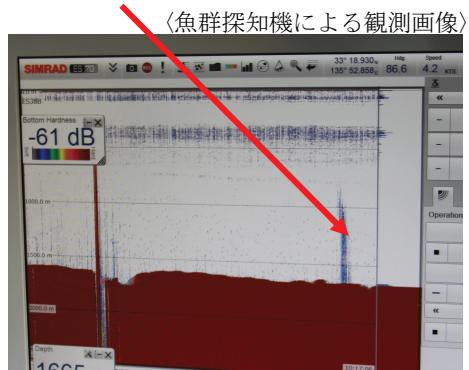
●メタンハイドレート賦存状況調査を実施しました

- ・11月26日と11月27日、和歌山県潮岬沖において、県保有の漁業調査船「きのくに」による和歌山県独自のメタンハイドレート*賦存状況調査を実施しました。
- ・今回の調査は、昨年度県が独自に表層型メタンハイドレート*賦存状況予備調査を実施したところ、メタンハイドレートが存在する特徴的な地形(地滑り地形)が確認されたことを受け、さらに高性能な魚群探知機を導入し調査することとしたものです。
- ・委託先の株式会社独立総合研究所 青山 千春 自然科学部長が「きのくに」の魚群探知機を使用し、海中のメタンプルーム*の存在を確認する方法で調査を行い、メタンプルームと考えられる海中に立ち昇る気泡及びメタンハイドレート細粒の密集帯の柱が複数確認されました。
- ・青山部長は、「観測したのはメタンハイドレートである可能性が高い。和歌山県沖は有望である。」との認識を示し、今後、将来におけるメタンハイドレート開発の促進が期待されます。

※<参考>

- メタンハイドレート…天然ガスの主成分であるメタンをカゴ状の水分子が取り囲んだ物質で、低温高压の海底下や凍土下及び海底面に存在
- 表層型メタンハイドレート…深海表層堆積物中に塊状あるいは板状で存在するメタンハイドレート
- メタンプルーム…海底から立ちのぼるメタンガスの気泡及びガスハイドレート皮膜で覆われたメタンガス気泡の密集帯。メタンプルームはメタンハイドレート存在の目印

この柱がメタンプルーム



●「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会」設立記念シンポジウム開催

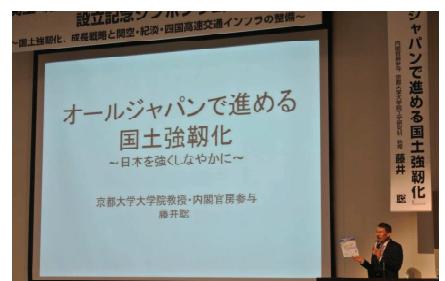
・11月28日、先月号でもお知らせしました「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会設立記念シンポジウム～国土強靭化、成長戦略と関空・紀淡・四国高速交通インフラの整備～」を、イイノホール&カンファレンスセンター(東京都千代田区)において開催しました。

・シンポジウムの冒頭、同協議会の会長でもある仁坂知事は、「関空への超高速鉄道、四国新幹線、紀淡海峡ルートという、3つの実現に向けた運動を1つに統合し協議会を設立した。このインフラ整備が西日本だけでなく、日本全体にとってどういう意味があるのかを国民にアピールしたい。」と挨拶しました。

・その後、内閣官房参与であり京都大学大学院工学研究科教授 藤井 聰 氏が、「オールジャパンで進める国土強靭化」と題した基調講演において、東京一極集中は大災害発生時のリスクを高めており、新幹線が無い20万人以上の都市を結ぶインフラ整備は、国土の分散化・強靭化とともに高い経済成長にもつながると講演されました。

・引き続き、仁坂知事がコーディネーターを務め、新関西国際空港株式会社 安藤 圭一 代表取締役社長・CEO、飯泉 嘉門 徳島県知事、藤井氏がパネリストとなって、「強靭な国づくりに求められる高速交通インフラの整備」と題したパネルディスカッションを実施しました。関西国際空港への高速交通アクセスや四国新幹線の必要性についての議論が交わされ、山陽道に集中している構造がどこかでおかしくなったら西日本全体がまひし、第二国土軸での高速交通インフラ整備は強くしなやかな国づくりにとって重要であると強調されました。

・また、本シンポジウムを契機に、高速交通インフラ整備の意義や必要性を国等に対して強く訴えていくこととなります。



●沖縄県において和歌山県出身沖縄並びに南方諸地域戦没者追悼式を実施しました

・11月25日、先の大戦において沖縄並びに南方諸地域で亡くなられた戦没者の冥福を祈り、平和を祈念するため、沖縄県糸満市の「紀乃国之塔」前において、和歌山県出身沖縄並びに南方諸地域戦没者追悼式を実施しました。

・「紀乃国之塔」は、昭和36年、県議会、戦友会等が「沖縄戦没者慰霊碑建設発起委員会」を設置して寄付を募り建立され、昭和57年の改修により現在の慰霊碑に改修されたものです。

・本式典は、昨年度まで県遺族連合会が主催していましたが、今年度から県が引き継いで実施することとし、御遺族はじめ県議会議員23人その他の来賓等併せて63名の方に御参列いただきました。

・式典において、仁坂知事は、「無念にも戦火に散った御靈の痛ましい悲劇、また幾多の苦難を乗り越え、荒れ果てた郷土の復興に尽くしてこられた御遺族の皆様方の御労苦に、思いを巡らすと万感胸に迫るものがあります。恒久平和の実現とわが国の繁栄、ふるさと和歌山のさらなる発展に全力を尽くしていくことを誓います。」と追悼の言葉を述べました。



●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会に係る募金及び企業協賛感謝状贈呈式

- ・11月5日、11月12日及び11月18日に、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金(きいちゃん募金)に多額の寄附をいただいた企業と、企業協賛企業制度により新たに決定した協賛企業に、仁坂知事から感謝状を贈呈しました。
- ・仁坂知事は各企業の皆さんに、お礼とともに「国体の準備は着々と進んでいます。今後は道路整備や選手強化も進めていきます。」と今後の取組を述べました。
- ・提供いただきました寄附金は、両大会のボランティア活動や県運動などの大会運営に活用させていただきます。

○寄附企業

企業名	出席者	企業名	出席者
株式会社サンコー	角谷 太基 代表取締役	株式会社保田組	北畠 忍 代表取締役
株式会社オプラス	上中 嗣郎 取締役会長	井筒建設株式会社	上地 秀和 専務取締役

○協賛企業

区分	企業名	提供内容	出席者
オフィシャル スポンサー	淺井建設株式会社	協賛金500万円	浅井 瑛介 取締役会長
オフィシャル サポーター	紀陽除虫菊株式会社	衛生関係物品	小久保好章 代表取締役
	木本産業株式会社	県外事務所用備品	木本 佳孝 代表取締役社長
	和歌山三菱ふそう自動車 販売株式会社	トラックの貸与	鈴木 恭一 代表取締役社長
	和歌山日野自動車株式会社	トラックの貸与	大野 康男 代表取締役
	株式会社酒直	レギュラーガソリン	中村 嘉彦 代表取締役社長
	川口水産株式会社	花いっぱい運動用ブランダー	川口 泰史 代表取締役

●「和歌浦漁港朝市 しらすまつり」が開催されました

- ・11月3日、和歌山市の和歌浦漁港において、第15回「和歌浦漁港朝市 しらすまつり」が開催されました。
- ・開会式において仁坂知事は、まつりが15回目を迎えたことに対するお祝いを述べた後、「皆さん、しらす、アシアカエビを買って、今日は楽しんでください。」と挨拶しました。
- ・このまつりは、毎年11月に開催され、和歌浦湾で獲れる純白の「わかしらす」をメインに、「しらすまつり」として開催されています。
- ・会場には、約40のブースに新鮮な魚介類が並びましたが、シラス丼販売ブースには販売前から行列ができる人気で、用意された600食は2時間ほどで完売となるなど、詰めかけた約15,000人の来場者で賑わいました。



●「近大卒の魚と紀州の恵み 近畿大学水産研究所」が東京・銀座に進出！

・12月4日、株式会社アーマリン近大(西牟婁郡白浜町)は、東京・銀座コリドー街に養殖魚専門料理店「近大卒の魚と紀州の恵み 近畿大学水産研究所 銀座店」をオープンしました。

・4月26日にオープンした「グランフロント大阪」内のナレッジキャピタルの店舗は大変好評であり、大阪店に続く出店となりました。

・同店では、近畿大学が世界で初めて完全養殖に成功した「近大マグロ(クロマグロ)」などの魚類をはじめ、わかやま産品応援店として、紀州うめどり・うめたまごやあんぽ柿、金山寺味噌など多くの本県食材が使用されます。また、ご当地スイーツ「わかやまポンチ」の提供もしていますので、是非、ご賞味ください。

◎店舗概要

オープン	平成25年12月2日(月)
場 所	銀座コリドー街(東京都中央区銀座6丁目2番地先)
県産食材	近大マグロ、ブリ、マダイ、シマアジ等の養殖魚 紀州うめどり・うめたまご、あんぽ柿、金山寺味噌、醤油、ぶどう山椒等
メニュー	本マグロと選抜鮮魚のお造り盛り 和歌山産野菜金山寺味噌のバーニャカウダ、わかやまポンチほか多数
ランチ	御膳(近大マグロと選抜鮮魚のお刺身御膳 等) 丼もの(近大マグロと選抜鮮魚の海鮮丼 等)



本マグロと選抜鮮魚のお造り盛り



養殖クロマグロ

イベント情報(12月11日~1月10日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
12/15 ～12/22	サンタが大水槽にやってくる	海南市・県立自然博物館	県立自然博物館 073-483-1777
12/18	しまい観音厄除開運大根炊き	和歌山市・紀三井寺	紀三井寺 073-444-1002
12/31	時鐘堂除夜の鐘つき	和歌山市・岡山	和歌山市教育委員会 073-435-1194
12/31	大松明押し	かつらぎ町・下花園神社	かつらぎ町花園支所 0737-26-0321
1/1	獅子舞	海南市・藤白神社	藤白神社 073-482-1123
1/2	新春かるた大会	和歌山市・玉津島神社	玉津島神社 073-444-0472
1/2	書き初め大会	和歌山市・和歌浦天満宮	和歌浦天満宮 073-444-4769
		海南市・春日神社	春日神社 073-483-7547
1/2～ 1/3	獅子舞	中辺路町・近露王子	中辺路町観光協会 0739-64-1470
1/3	お弓神事	日高川町・下阿田木神社	日高川町企画政策課 0738-22-2041
1/3～ 1/5	初詣初笑い神事	日高川町・丹生神社	日高川町企画政策課 0738-22-2041
1/5	七草粥まつり	紀の川市・青洲の里	青洲の里 0736-75-6008
1/5	地主神社の粥占い	上富田町・地主神社	地主神社 0739-47-0788



大松明押しは、1年の厄を落とし翌年の豊作を祈願する火祭りのひとつで、毎年、大晦日の夜、下花園神社(かつらぎ町)境内で行われています。

花園の若い衆20～30人が、音頭とりの囃子によって大松明をかつぎ上げ、祝い歌を唱えながら境内を3遍ねり(おし廻します。最後に、用意された小松明に大松明から火をとり、右左とかざしながら家に持ち帰ります。

昔は裸になって宮の手鉢で水をかぶり躰を清めましたが、今は社前で宮司さんにお祓いをしてもらいます。

自然・風物情報(12月中旬～1月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
12月中旬	熊野本宮大社 大しめ縄張り替え	田辺市・熊野本宮大社	熊野本宮大社 0735-42-0009
12月中旬	ハート型イチョウ	和歌山市・星林高校	星林高校 073-444-4181
12月中旬	ポンカン狩り始まる	串本町・四季彩園	串本町観光協会 0735-62-3171
12月中旬	ウツボ天日干し	紀南地方沿岸部	和歌山南漁協 0739-55-2002
12月中旬	クリスマス用イチゴ出荷ピーク	紀の川市・貴志川町	J A紀の里 0736-77-5666
12月下旬	那智の滝ライトアップ 那智の滝大しめ縄張り替え	那智勝浦町・那智の滝	熊野那智大社 0735-55-0321
12月下旬	和歌山城のしめ縄飾り	和歌山市・和歌山城	和歌山城管理事務所 073-435-1044
12月下旬	葉付きミカン出荷	有田市・千田	J Aありだ 0737-53-2311
12月下旬	葉ボタン出荷	紀の川市・名手市場	J A紀の里 0736-75-2564
1月上旬	デコポン収穫始まる	田辺市・上秋津	J A紀南 0739-23-3450
1月上旬	初泳ぎ	田辺市・ 田辺扇ヶ浜海水浴場	田辺市教育委員会 0739-26-4907

和歌山県では、那賀地方で多くイチゴが作られており、オリジナル品種「まりひめ」も育成されています。紀州の伝統工芸品「紀州てまり」にちなみ、かわいらしく皆さんに愛されるよう「まりひめ」と命名されました。紅色が鮮やかで、酸味が少なく甘い品種です。

収穫開始時期は、12月上旬で「さちのか」より2週間ほど早く、4月ごろまで楽しめます。

スーパーやお店で見かけたら、是非一度ご賞味ください。



～編集後記～

11月から各地で例年より早い初雪が観測され、和歌山でも11月19日に高野山で初雪が降り冬本番も近づいて参りましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

県庁では、今年も12月から来年3月にかけて冬の節電対策として、室温19℃以下設定や室内照明の消灯などに取り組んでおり、また、県民の皆さんにも御協力を呼びかけていますので、皆さんも生活に支障のない範囲で取り組んでいただけたらと思います。

エネルギー関連では、今月号でお知らせしましたが、潮岬沖において、メタンハイドレートの賦存調査を実施しました。メタンハイドレートといつてもなじみのない方もいらっしゃると思いますが、メタンと水が低温・高圧の状態で結晶化した物質で海底に存在すると見込まれており、分解して天然ガスを生産することができるため、次世代エネルギーとして期待されています。調査にあたった㈱独立総合研究所の青山千春博士によると、メタンハイドレートが存在している兆候が随所に見られ、和歌山県沖は有望な海域である可能性が高いそうです。県としては、国の調査の動向を注視しながら、さらなる調査を進めていきます。

また、潮岬沖の黒潮の流れは、海流発電として非常に有効と考えられるため、国が実施する実証実験海域に申請する予定です。さらに、豊富な日照時間を利用したメガソーラー、森林資源を活用した木質バイオマスなど、和歌山は、まさに再生可能エネルギーの宝庫といえます。

太陽、海、資源と、和歌山の豊富な自然の恵みを、新たなエネルギーの創出のために一層活用し、「元気な和歌山」の創造に大いに役立てていく必要があります。

さて、早いもので今年も残りわずかとなりました。師走となり何かと御多用のことだと思いますが、皆様、体調を崩されませんよう、くれぐれも御自愛ください。

今年も和歌山だよりのご愛読ありがとうございました。そして、少し早いですが、来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

2013年(平成25年)12月 NO.68

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022